

全国学力学習状況調査（学力調査）に成果の一端を見る PART

4月に行った学力調査の結果が21日に送られてきました。調査内容を分析して授業改善に生かしていくことは、もちろんですが、今回は、本校で取り組んだ学力向上の取り組みの成果と推察できる「エビデンスベース」のデータが現れました。研究とも深く絡みますし2学期の授業にも結び付きまますので、共通理解をお願い致します。

まずはじめに、全ての項目で全国平均をうわ回りました

本校にとって大きな快挙であると考えます。長年、学校を挙げて基礎基本の学習に取り組んだ成果には、胸を張りましょう。成果の実感をもつことは、2学期の教材研究への大きなモチベーションとなります。次は、都平均との比較です。

【国調査における都平均との差】（ ）内は、昨年度の6年生（現中1）の結果

国語A問題 +0.0ポイント（-3.2ポイント）

国語B問題 +1.0ポイント（-4.9ポイント）

算数A問題 -2.0ポイント（-5.0ポイント）

算数B問題 -2.0ポイント（-1.6ポイント）

都平均と確実に差が縮まっていることがわかります。

昨年度の6年生との比較になります。つまり調査を受けた児童が異なるために、「成果が現れた」と論じるのは、少々強引で早計です。しかし、「A問題」と国語B問題での大きな上昇は特筆です。長年の学力向上の取り組みに成果が現れていることは間違いありません。

【昨年度都調査と本年度国調査における都平均との差】（ ）内は、昨年度の自分たち（旧5年生）の結果

国語A問題 +0.0ポイント（+1.3ポイント）

国語B問題 +1.0ポイント（-0.4ポイント）

算数A問題 -2.0ポイント（-3.8ポイント）

算数B問題 -2.0ポイント（-1.5ポイント）

都平均と確実に差が縮まっていることがわかります。

比較対象（調査を受けた児童）が同じですので、より信頼性が高いデータです。国語のA問題は、若干差が広がっていますが、算数A問題は、1.8ポイントも差を縮めています。これは、朝学習や算数補充教室、ベーシックドリル等学校が組織的に取り組んできた成果であると考えられます。

手放しで喜ぶわけではありません。都の平均は依然と下回っていますし、おそらく区の平均にも達していないと思われます。

「志は、さらに高く」もっていきましょう。北西小は、常に「都平均よりも高い結果」を示す学校に3年後には確実にするという見通し、目標をもちましょう。「キーワード」は、「楽しく学力向上に取り組む」「問題を解くのが楽しい」「努力したら認められる」です。

次号では、もう少しこまかい分析をもとに発信をしてまいります。